

## 闇の中に輝く光③ 「神の子の幸福」 ヨハネ 1:9-13,16-18

「光は暗闇の中で輝いている」(1:5a)わたしたちはヨハネによる福音書 1 章を通して、暗闇のようなこの時代の中でも輝いている光に目を向けています。その光は創造主なるイエス・キリストから注がれているもので、わたしたちはその光によってまことの平安と希望とを受けることができます。また、ヨハネが「ロゴス」からキリストを発見したように、わたしたちはその光によって身近なところでキリストに出会うことができます。今朝は引き続き、ヨハネ 1 章から主の光に照らされつつキリスト者として歩む生き方について共に考えてみたいと思います。そこからコロナ危機を生きるわたしたちに必要なメッセージが示されると信じます。

## キリストを信じること

皆さんは日差しが強い日にはどのようにされますか。何も気にせず日差しの中に自分の身を置く方がいれば、日差しから肌を守るために日焼け止めを塗ったり、日傘をさしたりしているんな対策の上で出かける方もいます。あるいは、そんな日にはなるべく出かけないことを選ぶ方もいるでしょう。どんな対策であっても日光そのものに対してわたしたちは何もできません。光はわたしたちがつかれないもので、ただ照らされる中、その光を受け入れるか、避けるかという選択肢しかないのです。

聖書は主の光がすべての人を照らすと語っています。「その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。」(1:9)けれども、多くの人々はその光を通して示されたキリストを「認めず」(1:10)、「受け入れない」(1:11)選択をします。10 節の「認める」は原語からみると経験を通して知るという意味を持っているので、ここからわたしたちはキリストを知ることと、受け入れることが別のものであることが分かります。ですから、信仰とは、自分自身に照らされた光を通してキリストを知るところで終わるのでなく、素直にそのキリストを受け入れることがセットとなっているのです。その意味が12 節の「その名を信じる」という言葉にも込められています。なぜなら、「キリストの名を信じる」ことは「キリストに示されたことをすべて受け入れる」ことを意味するからです。

わたしたちの信仰生活において大きな誘惑の一つは自分の基準でキリストを取捨選択して受け入れることです。嵐を静め、病気を癒し、パンを食べさせてくださるイエスさまは喜んですぐ受け入れますが、「右の頬を打つ人に左の頬をも向けなさい」、「迫害する人のために祈りなさい」、「善いサマリア人と同じようにしなさい」と言われるイエスさまを受け入れるには悩んでしまいます。いつもそばにいて守り助けてくださるイエスさまはいつでも歓迎しますが、「わたしに従いなさい」、「世界に行って福音を宣べ伝えなさい」と言われるイエスさまには「今はちょっと…お待ちください」と言ってしまうのです。ありのままのわたしを愛し、受け入れてくださったイエスさまのように、わたしもありのままのイエスさまを受け入れたいと願いつつも、新しいキリストに出会う度に躊躇してしまうのがわたしたちなのです。ですから、新たにキリストが示される度に素直に受け入れることを決断していく、その過程がわたしたちの信仰の歩みなのです。そのような信仰の歩みにはどんなことが起こるのでしょうか。

## 神によって生まれる

示されたキリストを受け入れる信仰の結果は神の子になることです。「言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。」(1:12)「神によって生まれる」(1:13)ことで神の子になるのです。

わたしたちは知人のところに赤ちゃんが生まれたと聞いたら「良かった」と思いますし、その赤ちゃんに会うと嬉しく感じます。けれども、赤ちゃんを産んだ本人にとって出産は、命懸けの出来事であり、無事に赤ちゃんが生まれたことを奇跡のように感じます。赤ちゃんにとっては今まで見たこともなく、想像したこともない新しい世界に出会う出来事なのです。一人がこの世に生まれることは本人や家族にとっては新しい人生が創造される人生の最も大きな出来事なのです。

では、信仰により神によって生まれることはどうでしょうか。人の目には何も変わらないように見えるかもしれませんが、神の子という新しい身分を与えられ、神の家族の一員となって新しい家族を与えられます。いつも神の家と共に住み、いつか神の財産を受け継ぐ資格を与えられるなど、大きな変化が起こります。また、このような外的な変化のみならず、神によって生まれた者の内側にも大きな変化が起こります。神の子としての新しい心が生まれ、神によって育てられます。神によって生まれることは、ただ神の力と知恵による新しい創造の出来事なのです。「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(二コリント5:17)では、新しい創造によってその内面には具体的にどんな変化が起こるでしょうか。

## 神の子として生きる

13節はこのように語っています。「この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。」(1:13)神によって新しく造られた人々は血や肉の欲や人の欲をこえて生きるようになります。まず、キリスト者は民族や人種のような血のつながりによって人を分け隔てることなく、ただ神を通して人とつながります。同じく神によって生まれた人なら、だれとも神の家族となれるのです。また、肉の欲と人の欲をもこえています。ここに「欲」と訳された言葉に「意志」の意味もあり、「人」と訳された言葉には「男、夫」という意味があることから考えてみますと、神によって生まれた人々は自分の肉の欲するままに生きるのではなく、どんな人であっても他人の意志によって生きることはしません。それをこえて、ただ新しく創造してくださった神の御心によって生きるのです。自分のわがままに生きられないことが自由を奪われ、拘束されたように感じるときがありますが、キリスト者は自分の欲や人の声や期待から解放され、まことの自由を満喫しながら、自ら御心を求めて生きるのです。周りの人とは違った生き方をすることで、自分だけが損しているように感じたり、寂しくなったりしますが、そこには新しく創造された人でなければ分からない幸福があります。

14節をみますと、この世に来られたキリストは「恵みと真理とに満ちていた」お方でした。その恵みと真理はイエス・キリストを通してこの世に現わされ(1:17)、神によって生まれた人々の上に注がれています。「わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。」(1:16)主による恵み、その恵みによる幸福を心から感謝します。